

講義録

横浜市立大学学術情報センター市民講座『地域通貨の可能性～”ひと”と”まち”の再発見～』

第四回 平成 14 年 11 月 28 日

電子地域通貨「LOVES」と市民参加型まちづくり

講師：小林隆先生 慶應義塾大学 SFC 研究所

1. 新しい電子自治体像

- 行政だけが公共サービスの主体ではない
- 「市民＝顧客」といった発想は電子自治体の本質ではない
...市民と市役所が一緒に協力して、よりよい自治体を目指すのが本来である。
- 電子自治体づくりは市民参加と情報公開から始まる
...今までは e-Japan 政策などにより、行政内部の電子化・効率化がなされてきた。しかし、大和市が目指す新行政とは、市民参加で電子化を取り入れたもので、IC カードはそれを実現する手段の一つである。
- 価値観の読み替え

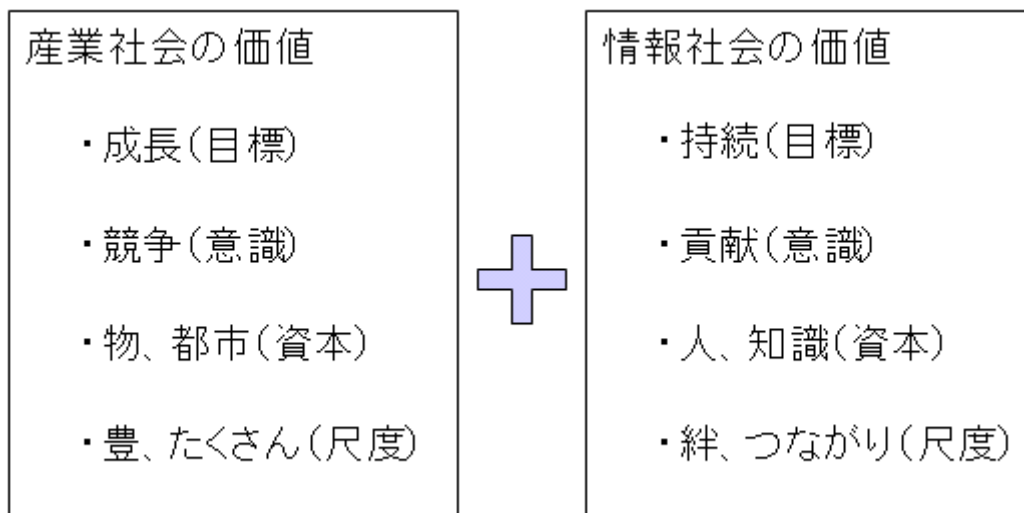


図1 価値観の読み替えとその融合

...行政も新しい価値観に基づく政策を展開すべきである。

2. インターネットと市民参加

- 自分の仕事についての情報は自分で情報を提供する
- 市民とともに職員は育つ

- 情報政策は、情報処理ではなく、情報生産政策である



図2 どこでもコミュニティにおける市民と職員の情報交換

市内各所や学校に PC 端末を多数設置し、誰でも、どこからでもインターネットに接続できる環境がある。PC を効率化のためだけの機械としてではなく、市民と市役所・市民間・市役所職員間のコミュニケーションの為の道具として捉えている。

3. IC カードによる電子地域通貨「LOVES」

- 市民・NPO・地域企業とともに築く 3 元論の社会
- 自律・分散、されど協調のツール地域通貨
- 地域通貨への期待と利用希望者の増大

...「LOVES」のために市内に 1100 台以上のカードリーダを設置（NPO・老人ホーム・商店街・生涯学習施設など各所）

...大和시는 50・60 才代のインターネット人口が全国平均より高く、LOVES の利用申請も高齢者（60～80 才代）の申請率が高い。（45%以上）

...今までは、国家・市場・市民のうち、前者二つの成長ばかりが重視されてきた。しかし、これからは市民の成長が重要である。

LOVES は「貨幣」というよりは、市民の行政への参加や市民間のコミュニケーションを促す道具である。

...「将来の LOVES の運営は市民の手で」、「将来は法人化したらどうか」という声も市

民から出ている

4 . PC の時代から IC チップの時代へ

- PC 利用による情報提供とサービスの限界
- 民間連携のない IC 利用は考えることができない
- 認知を前提として行動する問題解決型地域社会こそ真の社会の効率化

5 . 市民は情報サービスの提供主体

- ラブス・どこコミサポートセンターの挑戦
- 元気やさいネット事業への取り組み
- 市民は新しい公共の担い手になる

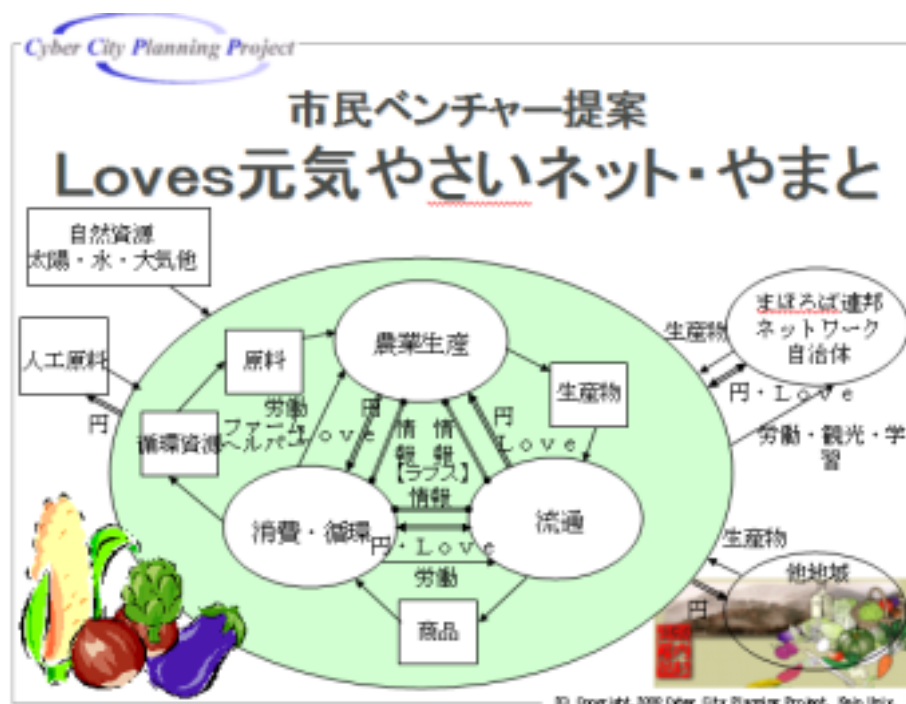


図3 LOVE S元気やさいネット

参考 大和市ホームページ

どこでもコミュニティ <http://www2.city.yamato.kanagawa.jp/index.html>

電子地域通貨LOVES <http://loves.city.yamato.kanagawa.jp/yamato/>

ラブスどこコミサポートセンター <http://members.jcom.home.ne.jp/yamato-loves/>

(STAFF : 金子 友美 久原 晃子)